式辞（令和５年度卒業式）

ただいま呼名された卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、お子様のご卒業、本当におめでとうございます。

さて、卒業生の皆さん、３年前の入学式で、同じように呼名されたのを覚えていますか？あっという間の３年間が、今日で終わりになります。この３年間でたくさんの思い出をつくることが出来ましたか？やり残したことはありませんか？楽しかったですか？たくさん聞きたいことはありますが、それも今日が最後です。

皆さんは、コロナ、今では数多くある感染症の一つになりましたが、目に見えない相手に翻弄された中学・高校時代を過ごしました。この期間、学校においてもリモート授業が導入されるなど、多くの仕組みが変わりました。コロナに翻弄された時期も終わりになりましたが、コロナを恨むのでは無く、コロナのお陰でこうなったと言える人生を歩んでもらいたいと切に願います。

ところで、今年、本校は創立１２５周年を迎えます。卒業式の最後の日に、１２５年間続いてきた皆さんの母校の話をしたいと思います。

先日行われたPTA研修で改めて本校の歴史について学びました。本校には、１９７９年創刊の８０周年記念誌と１９９９年創刊の１００周年記念誌が残されています。その中から１２５年続いている悠久の歴史について触れてみたいと思います。

１２５年前の創立者永野たけは、当時の社会的弱者である女性の教育が急務であると考え、学校を設立しました。つまり、人類の幸福は女性の手に託されているという理念からスタートしたのです。当時、女子教育に関心が薄い時代でしたが、裁縫の技術を身に付けさせ、女性の自立を促していたのです。

戦中の生徒は、戦争が激しさを増す中、国家統制のもと、我慢の生活が強いられています。まさに皆さんと同じような、いやそれ以上の学生時代を歩んだようです。この時代の寄稿を読む限り、どうしても暗い・悲しい時代になっています。

戦後の卒業生の寄稿は、これからの新しい日本の幕開けを告げるかのように前途洋々な楽しそうな文面が並んでいます。経済発展している日本を感じます。それと同時に、本校も長南町からこの地に移転し、生徒数の増加と共に発展し続けてきました。

「新しき世紀をつくるものは、青年の熱と力である」

この言葉は、４５年前の本校の先生の言葉です。

また、同じ先生がこう言っています。

「よく人生の勝負は何歳で決まるか、という問いに対して、それは５０歳であるといわれている。２０代、３０代で成功したようであっても、肝心なのは５０歳でどうなるかが大切なのである。したがって、若い時こ

そうんと苦労し、下積みな生活をし、途中で挫折をしない強靭な精神を培うことを、強く切望するものである」

４５年前の若者への励ましのメッセージです。

苦労・挫折とは、失敗をした後にどう立ち直るか、だと思います。学生時代にこの失敗を多くした人、すなわち悔しい思いをした人は、その後の人生にそれが必ず生きてきます。皆さんの卒業文集を読ませてもらいましたが、良い挫折・失敗をした人がたくさんいて、とても嬉しく思いました。

また、同時に、１２５年前から高校時代の仲間との思い出や先生からのメッセージは変わっていません。現代は、インターネット・ICT の普及により科学技術が格段に進歩し便利になっていますが、人間関係については１２５年前から何も変わっていませんでした。もっと言うならば、人類誕生から変わっていないのかもしれません。人との関わりとはそういうものなのでしょう。

本校の先輩たちも、皆さんと同じように、悩んだり、我慢したり、思い通りにならない中で、一生懸命に生きてきたことが伺えます。読むほどに本校の歴史がつながっていき、私自身も皆さんの母校を守る重責を感じるようになりました。歴史は繋がっていることを実感し、人生は「命のリレー」と言われることの意味も感じ取ることが出来ました。

では、時代のランナーである私たちが、時代の中でどう生きていくのか考えてみました。

私の経験から言うならば

「人を許すこと」です。

簡単に思いますが、なかなか出来ません。生徒指導において、人間関係のもつれのほとんどがこれでした。「人を許すこと」には、時間が掛かります。怒りの度合いによりますが、ここが人間関係に大切なことなのだと、覚えていて欲しいです。「人を許すこと」は「自分を許すこと」も同じ意味を持つことも覚えておいてください。

そして、どうしても許すことが難しい時は、心の中でこう呟いてみて下さい。

「全て許します。そして今の私がいるのはそれがあったから。本当に感謝しています。」

心が軽くなりませんか？そうです。「感謝とは許すこと」と腹落ちしました。

こんなこと言わなくてもわかっているかもしれません。なぜなら、皆さんの卒業文集には、感謝の言葉がたくさん並んでいました。北陵高校で学んだ皆さんが、こういう心境にいることをとても嬉しく思いましたし、私たち教職員もそんな皆さんと出会えたことに感謝しかありません。

また、皆さんの代は、先日の表彰の通り、部活動で大活躍した代でした。新しい北陵高校の歴史を繋げた代になります。しかし、その裏側で試合に出られず、悔しい経験をしたことや勉強・進路に関しても思い通りにならなかったことも多く綴られていました。それも、これまでの卒業生よりも多かったことです。１０代のレ

ギュラーが人生のレギュラーではありません。５０代でのレギュラーを目指して、今の内に多くの苦労をして欲しいです。

母校とは、青春時代を過ごした場所です。大勢の人たちと関わった場所です。北陵高校が１２５年続いてきた理由は関わった人たちの思いの強さとも思いました。歴史を遡っても、公立高校とは違い、簡単に継続することは出来ませんでした。常に、時代の中で挑戦し多くの生徒を社会に送り出してきた結果だと思います。３０年後、５０年後に皆さんが母校を誇りに思えるように、７月には第２体育館が立ち上がります。これもバトンを繋げるための挑戦です。後輩たちが、皆さんがつないだバトンをまた次の世代に繋げられるように見守っていてください。

私たち教職員も頑張ります。それが、皆さんの母校を守る者としての宿命と思います。

結びになりますが、ご列席いただきました保護者の皆さま方、大切なお子さまをお預かりしてから、あっという間に三年が過ぎました。コロナに翻弄される学校でしたが、お子様たちは立派に成長しました。2度とない青春時代を常に楽しんでいました。

本校としても、日に日に状況が変化する中で、教育を止めずに、常に最善の判断をしてきたつもりです。そんな中でも、担任を中心に保護者の皆様と協力しながら、子どもたちの成長に大きなお手伝いが出来たのでは、と考えております。時には連絡不行き届きのところもあり、ご不満を感じられたこともあったかと存じますが、常に本校の教育に対して温かいご理解とご支援を賜りましたことに、教職員を代表して、心より御礼・そして感謝申し上げ、式辞と致します。

ご卒業、本当におめでとうございます。

令和6年3月1日

茂原北陵高等学校

校長　永野　卓